

2021年度事業報告



活動レポート

①福祉相談事業

困りごと相談(自主事業)

活動の想い

安心して暮らせる地域を作りたい！

直接の成果

悩みや困りごとを抱えた人が相談をする。

短期成果

必要な時に相談できる関係ができる。

長期成果

問題解決へ向け、自ら行動が起こせるようになる。

【担当責任者】 法人事務局として実施

【活動概要】

暮らしにかかわる相談を法人全体として相談者の気持ちに寄り添う傾聴を中心に実施する。必要により関係機関への紹介を行います。

【活動実績・得られた成果】

法人全体で行う困りごと相談業務としておこないました。フードバンク事業の支援者を中心に相談がありました。まずはお話を聴くという姿勢を持ち続けることの難しさを改めて実感しました。

困ったときに気軽に相談できる場や機会、日頃からの関係づくり。

②高齢者・障害者に対する地域生活支援サービス事業

タイムケア事業(自主事業)

直接の成果

スタッフが生活の援助を始める。

短期成果

生活の連続性が保たれたり、やりたいことができ始める。

長期成果

必要な時に支援や手助けを受けながら自分らしい生活が継続している。

【実施回数】 182回(97.8時間/年)

【活動概要】

介護保険対象者および障害福祉サービス対象者に対し、制度のルール等の理由で対応できない部分に柔軟に対応する事業です。

【活動実績・得られた成果】

介護保険対象者及び障害福祉サービス対象者に対し、制度のルールなどで対応できない部分に柔軟に対応しています。高齢者では主に介護保険では対象にならない大掃除や草取り、水やり、移動支援を中心に行いました。障害者ではホームヘルプなどの隙間を埋めるサービスとして実施しました。

分かち合い事業(自主事業)

直接の成果

住民スタッフが生活のお手伝いを始める。

短期成果

生活の中の困り事が改善し始める。

長期成果

必要な時に支援や手助けを受けながら自分らしい生活が継続している。

【実施回数】 1.5時間/年 1回

【活動概要】

介護以外のちょっとしたお手伝いについて、住民同士の助け合いで柔軟に対応する事業です。

【活動実績・得られた成果】

昨年度同様、コロナウイルス感染症の影響もあり、優先度を下げたの実施となったため、実績はほとんどありませんでした。

③相談ケアマネジメント事業

ゆめじろう居宅介護支援事業所

(介護保険居宅介護支援事業)

活動の想い

見慣れた風景や環境の中、その人らしい暮らしができることを応援していきたい

対象

町内在住(近隣町を含む)
高齢者と家族

直接(～1か月)の結果

生活や介護に関する困りごとや、暮らしにくさに対して、サービスの利用や暮らし方について相談できる。

短期(～3か月)の成果

問題解決のための取り組みや、サービス利用が始まる。相談内容に合った機関との関係づくりが始まる。

中期(～1年)の成果

問題解決のための取り組みや、サービス利用が始まる。相談内容に合った機関とつながっている。

長期(～3年)の成果

自分らしい生活が支援を受けながら継続し、ひとりではないと感じながら生活ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続けられる。

コロナ禍におけるテレワーク風景

●110人／月平均 延べ1322人／年間(居宅介護支援794人、予防402人、総合126人)

【担当責任者】 西川百合

【活動概要】

介護を必要とする方が、自宅で適切に介護保険サービス利用ができるように、心身の状況や生活環境、本人・家族の希望に寄り添い、その人らしい生活ができるようにケアプランの作成やサービス調整を行います。暮らしにくさなどの相談の場合には、介護保険制度や他機関の案内や提案を行っています。

【2021年度活動目標】

他機関の機能を理解し連携に努め、迅速に必要な窓口につながることで、ゆめじろうへつながる人達が安心して暮らしができるように支援できるようスキルアップを目指す。また、ケース検討会を通してさまざまな制度理解を深め、「断らない相談窓口」としての機能充実を図っていく。実績確保のためにも「断らない」ことを前提に積極的に受け入れ、件数増加・増収を目指していく。

【活動内容・得られた成果】

新規受け入れ38件、入院時情報連携加算18件、退院退所加算18件。終了者37名(すでに施設等入所後の方含む、死去23名・施設入所12名・自立等2名)と動きの大きな一年となった。昨年度より半田市在住の方の受け入れを行い、行政や地域包括支援センターとのつながりを深める機会をもった一年となり、「断らない窓口」としての機能を果たした結果や、これまでの地域の方との関係作りの中での新規依頼、きめ細やかな対応による加算等の取得により、増収となっている。

また、継続的に行われる事業所内での事例検討会を通し、他機関の機能の理解や、障害分野の制度理解を深め、介護保険のみに限らない考え方や社会資源等の理解を深めることができ、毎月のケアマネのつどいも継続的に参加し、他事業所の介護支援専門員との関わりの中、資質の向上を図ることもできた。

続くコロナ禍の中、タブレット端末を助成申請し、テレワークを積極的に取り入れることで、感染予防に努めながらの一年ともなった。



「困った時の、ゆめじろう、まずは相談ください。」

ゆめじろう相談支援事業所



令和4年1月、知多南部基幹相談支援センターが設置されました。

(障害者総合支援法)知多南部相談支援センター(委託⇒基幹)、一般相談支援事業、特定相談支援事業、(児童福祉法)障害児相談支援事業

R4.1~

活動の想い
障害のある人と家族が安心して暮らせる社会や地域を作りたい！

対象
武豊町・美浜町・南知多町
在住の障害者と家族

活動内容
障害児・者の生活・サービスに関する相談援助。
協議会の運営。

直接の結果(～1か月)
相談を行い、必要な情報が得られたり、サービス利用が始まる。

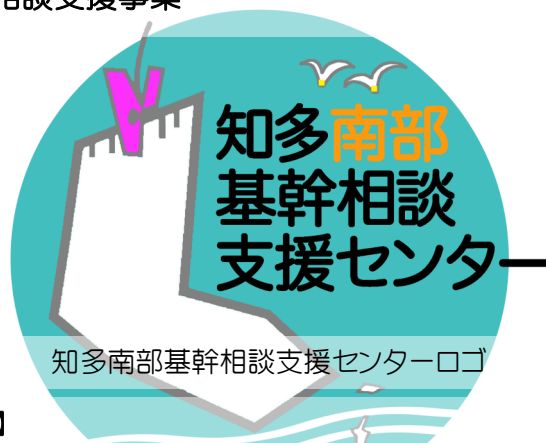
短期の成果(～3か月)
必要に応じ相談ができ、生活が安定しはじめる。

中期期の成果(～1年)
新たな課題が出てきても、相談することで安心できる。

長期(～3年)の成果
住民の障害理解が深まり、サービス以外の資源を活用しながら自分らしい生活ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



【利用人数】

相談実績:18,069 件/年間(前年度14,469件)

サービス等利用計画延べ人数964人(前年度843人)

【担当責任者】 坂本ちひろ

【活動概要】

武豊町・美浜町・南知多町に住む障害がある人の生活に関わる相談を3町から委託を受け行っているほか、地域自立支援協議会の事務局を行っています。また、福祉サービス利用のための計画作成も行っています。

【2021年度の目標】

人員を確保し、丁寧な人材育成をしっかりと行いながら、基幹相談支援センターの開設に向けて準備を行っていく。協議会を基本に地域づくりにも尽力して、福祉サービスに頼らない支援体制を確保していく。

【活動実績・得られた成果】

退職者もいましたが、常勤換算約4.8人の人員体制を確保して、事業を実施。現任者以上と初任者といった二人体制を基本にして新規相談をうけつけ、人材育成を意識してOJTをフル活用しながら対応してきました。スピード感をもたせるために、最初はセルフプランで対応し、更新のタイミングをみて計画相談に移行する流れで対応することで、利用者のニーズにこたえる工夫をしてきました。

基幹相談支援センターの開設に向けて、複数回話し合いの場をもち、1月～基幹相談支援センターの設置が実現。徐々に充実をさせていく段階ではありますが、2月に相談支援事業所連絡会の場をもつことができました。相談支援専門員のスキルアップや増え続ける新規相談に地域全体で対応していく仕組みをつくるきっかけにしています。

また、コロナ禍でも対応できる協議会や研修のあり方の検討をしながら、ハイブリッド形式を基本にほぼ計画通りで開催をすることができました(残念ながら、差別解消法研修については、開催時期から延期ができず、最終的に中止)。

④ホームヘルプ事業

ゆめじろう訪問介護事業所

(介護保険訪問介護事業、介護予防訪問介護事業)

活動の想い

住み慣れた町で暮らし続けることを応援したい！

対象

町内在住高齢者

活動内容

介護保険サービスとして高齢者の生活を支えるための訪問支援。

直接(～1ヶ月)の結果

ヘルパーが家庭に入り生活の援助を始める。新たな困りごとや課題が明らかになる。

短期(～3か月)の成果

ヘルパーの援助を受けながら生活をする。

中期(～1年)の成果

出来ることは自分で行い、できないことはヘルパーと一緒にしながら生活の質が向上する。

長期(～3年)の成果

自分らしい生活がヘルパーの援助を受けながら継続し、生きがいや目標が見つかる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

利用者さんと一緒に掃除をしました。



【担当責任者】 尾溝悠輔

【事業概要】

利用者さんの日常生活をお手伝いさせていただいています。住み慣れた自分の家(地域)で過ごしたいという利用者さんに寄り添い、生きていて良かったと思ってもらえる支援を心がけています。

【2021年度の目標】

新規受け入れを継続して行い、連絡、連携を時代の流れに合わせた方法で柔軟に行っていきます。

【活動実績・得られた成果】

新規20件(介護12件、予防8件)昨年度より収入増。

ご自宅で静かに最期を迎えたいというご本人の意思を尊重し、在宅で携わる専門職の方々と連携を取りながらの支援を行いました。状態に合わせながら、支援日数の増加を希望された時には、調整しできる限り対応しました。また、専門職の方に利用者さんにとって楽な介助方法も学ばせて頂き、安心してケアを任せてもらえるよう努めました。

ご家族の気持ちに寄り添いながら支援を行っています。必要時には、密にご家族と連絡を取り合い、困り事、不安事などの傾聴に努めました。介護負担軽減の為のご提案などさせていただきました。

利用日が受診等でキャンセルになった場合には可能な限り、日程変更し生活が困らないよう対応も継続して行いました。

新型コロナの影響で会議が減った事に対する対策としてZOOM機能を活用し、集まらなくても定期的に会議を開催する事ができました。ヘルパー間のコミュニケーションの機会も増えました。コロナ対策で事務所に立ち寄り制限もある為、端末機の情報ツールにて情報共有や連絡を密に取りやすいよう改善を重ね、サービスの質の向上に努めました。



「柔軟に・丁寧に・もっと笑顔がみたいから」気持ちに寄り添いながら支援します。

ゆめじろう居宅介護等事業所

(障害者総合支援法居宅介護等事業)



町内唯一行動援護を実施しています！

活動の想い

障害のある人の社会参加や挑戦を寄り添って応援したい！

対象

町内在住(近隣町を含む)障害者

活動内容

自宅へヘルパーが訪問し、障害児・者の地域での生活を支えると同時に生活課題を明確にして課題解決のための支援を行う。

直接の結果

ヘルパーが家庭で生活の支援をしたり、社会参加支援を始める。

短期(～3か月)の成果

ヘルパーが家庭で、日々の生活支援に加え、課題解決のための支援を受け始める。

中期(～1年)の成果

継続した支援を受け続けていける。ヘルパーの支援を受けながら課題解決力・生活力が付く。

長期(～3年)の成果

自ら課題解決に向かっていく力が付く。また、必要とする支援を発信できるようになる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



【根拠事業】居宅介護等事業、行動援護、移動支援

【担当責任者】 尾溝悠輔

【活動概要】

個人のニーズに合わせ、マンツーマン対応で障害のある方の日常生活・余暇活動を支援しています。

【2021年度活動目標】

- ・内容や時間の見直しによる支援の質の統一と向上。 一部達成
- ・行動障害のある方への派遣数の更なる増加。 達成

【活動内容・得られた成果】

平日はニーズは朝と夕方に支援の希望が偏ってしまい、日中に支援がない日があることが課題の一つでしたが、近隣の学校に通う障害学生の支援依頼があり、他事業所と連携して支援を行うことになりました。初めての試みとして2021年度末から支援会議や申請を行って、学校内での支援を2022年度から開始しています。

移動支援事業に関しては、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響から全体的に利用希望の減少やキャンセルが目立ちましたが、こういった状況だからこそ普段行かない場所に外出する経験も積むことができ、利用者の新たな発見に繋がっています。

行動障害のある方への派遣数は、資格取得者が増えたことで昨年度に比べて約10%支援時間数が増加しています。

⑤ デイサービス事業

ひるじろう (生活介護)

活動の想い

どんなに重い障害があっても、その人らしい自己実現ができる活動や居場所が必要だ！

対象

町内在住(近隣町を含む)の重度障害者

活動内容

重度障害者に対し、それぞれの能力や意向に応じた日中の活動と居場所の提供を行う。

直接の結果

送迎等の支援を受けながら自分のペースでひるじろうに通い、活動に参加する。家族以外の人とのかわりが始まる

短期(～3か月)の成果

活動に参加するうちに自分の強み弱みが分かってくる。得意な活動にはやりがいをもてるようになる。

中期(～1年)の成果

得意な活動に磨きをかけ、やりがいを持って取り組めるだけでなく、息抜きもできるようになる。

長期(～3年)の成果

やりがいをもって行える活動を共に行う仲間ができひるじろうが大切な居場所となる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続けられる。



みんなでちぎり絵で作った鬼に向かって、豆まき！

【利用定員】 10人 平均利用人数 9.1人/日

【担当責任者】 出口 晋

【活動概要】

町内及び近隣障害者に対し日中のつどいの場・活動・仕事を提供し、自立と社会参加と自己実現を支援する。

【2021年度活動目標】

引き続き多様なニーズに対応できるよう一人一人の強みを引き出し活かせる活動の創出をおこなう。高齢化する家族負担の軽減のため祝日や大型休の中日での開催なども行っていく。地域生活支援拠点としての役割を担っていく。

【活動内容・得られた成果】

コロナ禍になり、ショッピングセンターや飲食店への外出ができなくなり、ひるじろう内でお楽しみ会を年3回行いました。ゲーム大会をしたり、昼食をいつもと変えてみたり、自分でトッピングをしてパフェを作ったりしました。時々、マスクをつけ距離をとりながらカラオケを行いました。

タブレットを購入し、活動中や休憩時間に音楽を流したり、動画を見ながら折り紙やトイレットペーパーの芯などで工作をしたりしています。今までスタッフのスマホを活用していましたが、タブレットを購入したことにより画面も大きく、みんなで一緒に見ながら活動できるようになりました。音楽が流れていることによって、気分が上がり作業が頑張れたり、利用者さんの好きな歌をみんなで共有できるようになりました。

3月から、火曜日に武豊町役場にて、さをり織りの作品の販売を始めました。月1回の販売ですが、売れたものやお客さんがこんなものが欲しいと言っていたなど利用者さんと話しながら、次回織る色や大きさなどを決める参考にしています。実際の販売に出向くことで、買い手のニーズに触れ、やりがいを感じられるようになりました。



モチベーション

笑顔溢れる

ひるじろう



ひるじろう (就労継続支援B型)

活動の想い

障害のある人の「仕事がしたい」「社会の役に立ちたい」という思いを応援したい！

対象

町内在住(近隣町を含む)の仕事をしたたい障害者。仕事ができる可能性があるのに十分に力を発揮できていない障害者。

活動内容

障害者に対し、仕事を通じて社会参加・社会貢献をする場の提供を行うと共に、それに対し工賃を支払う。

直接の結果

ひるじろうへ通い、コロッケ作り・販売、整備事業など自分に合った仕事に取り組む。

短期(～3か月)の成果

ひるじろうに慣れ、仕事をしながらの生活リズムができる。

中期(～1年)の成果

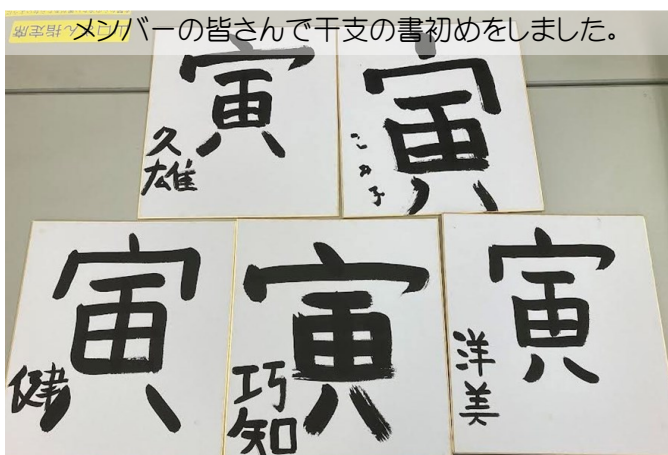
お金に関心が持てるようになる。目標工賃1万5千円/月の達成

長期(～3年)の成果

工賃だけでなく、仕事そのものにもやりがいや誇りが持てるようになる。目標工賃2万円/月の達成

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



【利用定員】 10人 平均利用人数 5.2人/日

【担当責任者】 梶貫浩美

【活動概要】

町内及び近隣障害者に対し日中の活動・仕事を提供し、自立と社会参加と自己実現の支援を行う。

【2021年度の目標】

- ①利用者増に向けて⇒定員に余裕があることを各種相談及び特別支援学校へ周知する。(チラシの作成と関係機関回り)
- ②長く務めたスタッフが抜けたことによる業務の支障が出ないように、点検と業務の再編成を行う。
- ③一時停止している役場での販売と武豊歯科に代わる販売場所の開拓。
- ④季節商品の開発

【活動実績・得られた成果】

1年8か月続けていた中電での販売を作業員の減少により撤退しましたが、スタッフが退職し休止していた武豊町役場での販売を5月から開始することができました。現在は富貴駅前と武豊町役場での2か所のための販売ですが、売上は好調です。

中電の販売撤退などによりコロッケの売り上げ自体は2割ほど減少したものの支払い工賃の総額は前年度とほぼ同じ金額を支払うことができました。利用者が1名減り少ない人員で作業したことにより平均支払い工賃は前年度より2割増となりました。

食品製造に欠かせない衛生を保つことにさらに重点をおき、健康衛生管理表を見直し、毎朝の健康や衛生保持の強化を図りました。

また月に1～2回昼食作りを行いました。作りたい、食べたいメニューの意見を出しあい、みんなで作って食べた昼食はおいしいものでした。ここでの体験で少しでも自信をもち、家での生活につなげることができたらと思います。

こじろう (放課後等デイサービス)

活動の想い

障害のある子どもたちの地域の中で健やかな成長と家族を応援したい！

対象

町内在住の障害児(家族)

活動内容

障害児の放課後と長期休暇の活動と居場所の提供。

直接の結果

子：場所、人に慣れ落ち着いて過ごすことができる。親：自分の時間が持てることにより余裕ができる。子の家とは違う側面を知る。

短期(～3か月)の成果

子：こじろうに行くことが楽しみになる。親：安心して送り出すことができるようになる。

中期(～1年)の成果

子：好き嫌いがはっきりして自分から活動を選択し参加できるようになる。親：スタッフと信頼関係ができる。

長期(～3年)の成果

集団で過ごし、社会経験を積み上げることにより必要なルールが身に付きよい人間関係が保てるようになる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



【利用定員】 10人 平均利用人数 8.1人/日
延べ利用人数 1581人/年(195日)

【担当責任者】 榊原由起

【活動概要】

障害のある子どもたちが放課後や長期休暇を安全に楽しく過ごすための場所です。子どもたちが主体的に活動できることを目標にしています。

【2021年度の目標】

- ・安定した活動運営ができるように人材の確保を目指す。またはゆめじろうとして組織の再編も考えなくてはならない時期に来ていると思われるので、理事会、部門会議等で話し合っていく。
- ・引き続き将来を見据えた活動の取り組み
- ・こじろうを知ってもらうため地域の社会資源の活用。

【活動実績・得られた成果】

4月、新1年生を3名受け入れることができました。3人ともすぐに溶け込み、問題なくスタートを切ることができました。12月には「障害者作品展」に久しぶりに参加しました。ひとりひとりが唯一無二のかわいい「ランプシェード」を作りみなさんに見ていただきました。1月中旬、突然の「こじろう閉鎖」のお知らせ。利用者の皆さんに不安を与えてしまいました。代替案について、すぐに説明会を設け、何とかご理解をいただきました。消毒、換気、密にならないように気を付けていましたが、3月上旬クラスターが発生、2週間こじろうを閉鎖することになってしまいました。



富貴地区あちこち散歩に出かけています。

⑥福祉移送ボランティア事業

【根拠事業】 自主事業 【担当責任者】 山本浩人

【事業概要】 必要やむを得ない場合の車による移送

【事業実績】

ほとんど実績はありませんでした。

⑦次世代育成事業（子育て支援事業）

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 瀧本智恵美

【事業概要】 託児等を会員同士の助け合いで実施する。

【事業実績】

実績はありませんでした。

⑧高齢者障害者に対する社会参加促進事業

喫茶「ゆめひろば」

直接の成果

町民がゆめひろばを利用し、
食事やお茶を飲みながら話を
する。

長期成果

町民会館に、食事をしたりお
茶を飲みながら仲間との交流
や出会いの場が確保される。

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 木村智子

【事業概要】

食の安全を意識した手作りの食事、飲み物を提供しています。また、住民の交流の場として快適な場所作りを大切にしています。

【2021年度の目標】

引き続きコロナウィルス感染症の状況を見極めつつ安全な運営を心がけます。

【活動実績・得られた成果】 概ね週6日営業

緊急事態宣言も出る中、ひるじろうの給食づくりも含め営業を行いました。収束の状況下では通常営業を行うとともにイベントへの協力も行いました。

夏の厨房の暑さ対策として、新たにファン付きベストの導入を行いました。

就労継続支援B

P12を参照 ひるじろうの活動の中で紹介。

フリースペース事業

【事業概要】

事業所のいろいろなスペースを利用して、地域の方が立ち寄ったり、ボランティアとして参加いただいたりする事業を提供しています。「こんな事ができるといいなあ。」や「こんなことで困っている。」「このくらいの手伝いはできるわよ。」などの声を大切にいろいろな活動を少しずつ行っています。

ゆめじろう茶屋 自主事業

活動の想い

地域で孤立することがないように住民同士のつながりを大切にする居場所を作りたい！

対象

町民

活動内容

地域住民が気軽に集える場所と活動の提供をする。

直接の結果

地域住民が日常的に茶屋に集い活動に参加する。

短期の成果

茶屋に集う者同士の交流が生まれ、新たな関係ができる。

長期の成果

茶屋を活用して地域住民の支えあいの活動が展開される。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 小藤あけみ

【事業概要】

年齢・性別・国籍問わず気軽に参加しています。

情報交換や物々交換、新しいつながりなど「つどい・つながる」場所です。

【2021年度の目標】

コロナウイルス感染症の蔓延状況を見極めつつ、人とつながることの難しい人たちへの支援の在り方について模索していく。

【活動実績・得られた成果】

昨年度同様コロナウイルスの感染予防のため、感染リスクの高い高齢者の集まりさをりなどは中止となりました。

未実施

⑨地域福祉啓発・研修事業

【根拠事業】 自主事業

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

高齢者福祉および障害者福祉にかかわらず地域福祉に関わる活動やイベント等を開催しています。毎年9月の第1土曜日に行っている夏祭り(平成28年度からは龍宮まつり)、日本福祉大学と協働で実施するサービスマーケティング、武豊町との協働事業で始まったきのこプロジェクト、フードバンクちたの他、ゆめじろうくん(着ぐるみ)やコロケカーによる地域イベントへの参加など多岐に及びます。平成30年度は、武豊町提案型協働事業を活用し子どもの居場所を考える『たけのこプロジェクト』を行いました。

たけのこプロジェクト (武豊町提案型協働事業)

活動の想い

美味しい顔と時間を共有することで困ったときにSOSが出せたり助け合える関係と地域力を作りたい。

活動内容

月に1回、地域住民が集まり一緒にカレーを食べる機会を作り美味しい顔と時間の共有をすることで

直接の結果

地域住民と一緒に食事することで顔がつながる。

短期の成果

顔がつながり名前も覚え、気軽に声掛けられる関係になる。

長期の成果

困ったときにSOSが出せたり、助け合える関係ができる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。

【根拠事業】 武豊町提案型協働事業

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

子どもから大人まで困ったことがあったときに、地域で解決ができるよう、一緒に美味しい顔と時間を共有することでSOSが出せたり助け合える関係づくりをする。

【2021年度の目標】

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

集まるのが難しい中、できる形での実施を模索いたしましたが、実施することができませんでした。フードバンク事業については継続しており、学習支援の子どもたちには週1回の食料提供ができました。

未実施

ゆめじろうくん・コロッケカーの出動(自主事業)

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】出口 晋

【事業概要】

啓発活動の一環としてキッチンカーの出動やゆめじろうくんがイベントに参加したりしています。

【2021年度の目標】

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

コロナ禍ではありましたが、収束状況を見ながら武豊町内のイベントに2回参加し、いずれも大盛況でした。



ゆめたろうスマイルマラソン応援(自主事業)

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】出口 晋

【事業概要】

平成25年度からは、「一緒に走ろう」という参加型の活動から転じ、「みんなで応援しよう」という町のイベントを地域住民と一緒に応援し盛り上げる活動を行っています。

【2021年度の目標】

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

昨年に引き続きスマイルマラソン自体が中止となり、活動は行いませんでした。

未実施

フードバンクプロジェクト（自主事業）



【根拠事業】自主事業

【担当責任者】横山直子

【事業概要】

セカンドハーベスト名古屋、サポート知多、日本福祉大学、常滑市社会福祉協議会と協力し、大規模ショッピングセンターや食品会社などからまだ食べられるのに捨てられてしまう食品をもらい受け、生活困窮者など必要としている人たちに届ける活動です。

【2021年度の目標】

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【事業内容・得られた成果】

感染予防策を取ることで、大きな影響を受けることなく実施することができました。地域の子供会や子育て支援活動に対して、おかしやおもちゃの提供をすることができました。

サービスラーニング（日本福祉大学との協働事業）

【根拠事業】日本福祉大学との協働事業

【担当責任者】出口 晋、西川百合

【事業概要】

地域福祉サポートちたを通じて実施する日本福祉大学との協働事業。「フィールド実践演習」という科目の中で実施され、NPO法人の活動を通して実習することで、学生の「市民性」を育み、自らの意思をもって関わっていく力を養っていくことを目的にしています。

【2021年度の目標】

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【事業内容・得られた成果】

コロナ禍ではありましたが、2名の学生の受け入れを行いました。様子を見ながら事務所にも足を運んでもらい、放課後等デイサービスこじろうの家族を対象としたアンケートを実施し、障がいのある子どもを持つ家族の生活の実情を学びました。



きのこプロジェクト（武豊町提案型協働事業自主事業）

【根拠事業】 自主事業（前：提案型協働事業）

【担当責任者】 出口 晋

【事業概要】

自然公園一帯の活性化活動

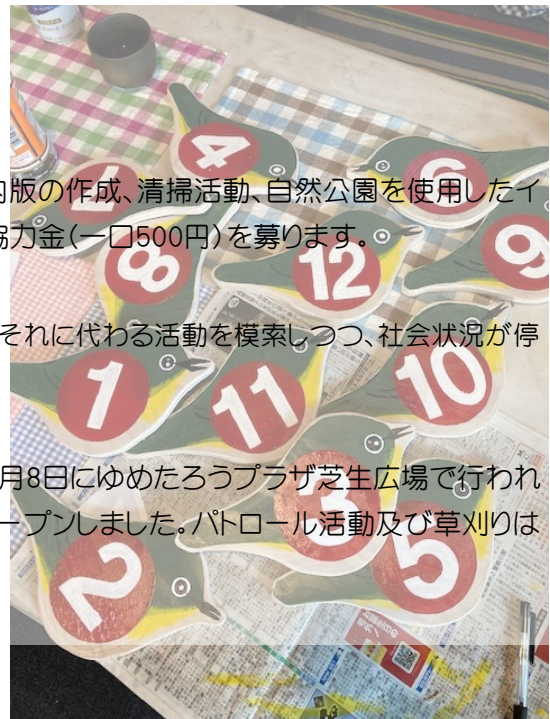
自然公園パトロール（重度障害者による）、マップ・案内版の作成、清掃活動、自然公園を使用したイベントを行う活動です。実施にあたっては町民からの協力金（一口500円）を募ります。

【2021年度の目標】

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

コロナの影響でイベントは実施できませんでしたが、5月8日にゆめたろうプラザ芝生広場で行われた『芝生広場フェスタ』にハンモックガーデンが出張オープンしました。パトロール活動及び草刈りは実施することができました。



龍宮まつり

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】出口 晋

【事業概要】

盆踊りや運動会など地域のイベントが少なくなってきた富貴地区において地域の人々が参加しつながらあえるお祭りの開催。

【2021年度の目標】

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

コロナウィルス感染症が収束を見せない中、実施及び地域関係者との協議の場も持つことができませんでした。

未実施

ゆめにてい

【根拠事業】自主事業

【担当責任者】西川百合

【事業概要】

昨今地域力の低下と言われる中、ゆめじろうが地域の中で果たす役割について話し合っています。プロジェクトとして始動する前には「困った人発見隊」という名で活動してきました。ゆめじろうを知ってもらい、困った時に相談できる場所や人とのつながりがあることで、少しでも安心して生活ができるのではないかと考え、手始めとして「市」を開くことにしました。

【2021年度の目標】

全事業において、コロナ禍においても実施できる方法やそれに代わる活動を模索しつつ、社会状況が停滞することのないよう考えながら活動をしていく。

【活動内容・得られた成果】

本年度も実施することはできませんでした。

未
実
施

⑩短期介護事業（ショートステイ）事業

【根拠事業】自主事業・地域生活支援拠点（体験的宿泊・緊急一時的宿泊）

【担当責任者】尾溝悠輔

【事業概要】

本人及び家族の緊急時の宿泊支援及び将来へ向けての宿泊体験の場と機会の提供を行う。

【2021年度の目標】

体験宿泊について、レスパイト目的での利用ができない現状の中、重度の方を十分に支えるショートステイも武豊町にないため、体験宿泊の在り方を南部3町と協議会を通じて検討していく。また、感染症などが広がってきた際には、ご利用者様の安全を最優先し利用の制限も検討し実施していく。緊急時は予測できないことだが、利用者・家族に安心して使っていただけるよう、継続的に受け入れ体制を整えていくとともに相談及び訪問サービスとも連携して実施していく。

【活動内容・得られた成果】

家族のコロナウイルスワクチン接種に合わせて、副反応により介護ができなくなることを想定し体験的宿泊を活用して対応を行った他、兄弟の用事で介護ができない状況に合わせて体験的宿泊で対応を行った。いずれのケースも行動障害があり通常の短期入所が利用できないケースでした。

⑪障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

居住サポートいえじろう(共同生活援助)



緑区民として生活しています。

ますます地域の中での認知度も上がってきています。

活動の想い
障害のある人の親から
離れて暮らす挑戦を応
援したい！

対象
町内在住の障害者

活動内容
障害者のための家庭的
で社会とのつながりの
ある住まいの提供。

直接の結果
グループホームでの生
活を始めるとともに地域
行事への参加、ボラン
ティアの方との交流会に
参加し始める。

短期(～3か月)の成果
グループホームでの生
活に慣れ、地域の方やボ
ランティアの方との交流
にも慣れる。

中期(～1年)の成果
グループホームを利用
する日が増え、ボラン
ティアの方と一緒に過
ごすことができる。

長期(～3年)の成果
安定した生活をグルー
プホームで送る。地域
の方に存在を知って
もらう。ボランティア
の方と一緒に外出が
できる。

ゆめじろうのミッション

住み慣れたまちで自分らしさを大切にしながら暮らし続ける社会の実現。



地域の皆さんに看板知ってもらうため看板を設置

【根拠事業】共同生活援助 定員8人

【担当責任者】 山本浩人

【活動概要】

利用者さんが「ただいま」と安心して帰宅できるお家です。障がいのある方が地域の中で自分らしく生活が送られるようサポートしています。

【2021年度の目標と成果】

- ①日々の生活の中でアセスメントを行い、随時必要な支援を変更・追加していく。必要な場合は障害支援区分の見直しも行う。→概ね達成。今後も継続していきます。
- ②利用者本人の希望や、ご家族の体調や高齢化に鑑み、利用日数の見直しを行う。→概ね達成。聞き取りを行ったうえで、利用日（特に土日・祝日）について変更を行った利用者さんもありました。また、帰省予定日にご家族の体調不良や家のご都合などの緊急時に、急遽ホーム利用の対応を行った事も複数回ありました。
- ③収支を黒字にする
→達成。2021年度から新設された「重度障害者支援加算」が取れたこと、障害支援区分見直しにより、事業収入が上がったことが要因です。
事業開始からずっと赤字の部署でしたが、ようやく黒字にすることが出来、大変うれしく思っています。
地域の皆さんに、このホームをより知ってほしいという思いから、看板を設置しました。
生活の場にわざわざ事業所名の看板設置をする必要があるかなどの議論を積み重ねた結果、シンプルに「知ってもらえるならやろう！」という事で設置の運びとなりました。